

ジェイシフ

JSHIF

斎藤会長 年頭所感

第27回定時総会・第73回理事会

SPORTEC2015セミナー

2015スポーツ&レジャーフェスティバル

第14回シンポジウム／第3回スポーツ振興賞

第15回シンポジウム

平成27年度情報交換会他

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会

2016.1
No.62





年頭所感

2016年1月吉日
公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会
齋藤敏一

2016年の新春を迎え皆様ともどもお慶び申し上げます。スポーツには夢や希望をもたらす大きな力があり、健康、文化、交流、教育経済にも力を発揮します。わが国においては、ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会、関西ワールドマスターズゲームズ2021など大規模な国際競技大会の開催を目押しに控え、スポーツに対する機運が年々高まることが予想されます。昨年10月1日には、スポーツ界の長年の悲願でありましたスポーツ庁が設置され、スポーツを通じた健康増進、地域活性化、国際的地位の向上、スポーツ産業との連携等、スポーツ行政の司令塔としてスポーツ施策を総合的・一体的に推進されることが期待される所です。

健康産業では、国民医療費の増加や生産年齢人口の減少などから、健康経営への取り組みが加速しております。これは、企業や健康保険組合が社員とその家族の健康管理、健康の維持増進を図るものです。政府も積極的に取り組んでおり、厚生労働省では、健康寿命の延伸を目指し、二十一世紀における第二次国民健康づくり運動や、運動・食生活・禁煙・健診受診に特化した「スマート・ライフ・プロジェクト」活動を積極的に推進しております。また、経済産業省では、企業による健康投資を促進するため、厚生労働省が進めるデータヘルス計画と連携し、企業・経営者向けに、健康投資のガイドブックを策定し、企業経営者が自ら健康投資を実践することを促しております。また、同省が進める健康寿命延伸分野の市場創出と産業育成は、国民のQOL(生活の豊かさ)の向上、国民医療費の抑制、雇用拡大及び我が国経済の成長に資するものです。

近年、東京、大阪、横浜等の大都市や、市町村で市民マラソン、ウォーキング等の大会が盛んです。身体を動かすことによって、心臓や脳は活性化します。楽しんで運動することが健康への最良の道です。

本連合会では、昨年3月に第3回スポーツ振興賞の表彰式を行いました。同賞は、スポーツを通じて地域振興に貢献したと認められる団体・グループ等を顕彰するものです。第3回スポーツ振興賞は、全国から26件と多数のご応募があり、「スポーツ振興大賞」1点、「スポーツツーリズム賞」として観光庁長官賞1点、日本スポーツツーリズム推進機構会長賞1点、また、「スポーツとまちづくり賞」として経済産業省商務情報政策局長賞1点、日本商工会議所奨励賞1点、「特別賞」としてスポーツ健康産業団体連合会会長賞1点の授賞を行いました。

第4回目の募集は本年3月開始、授賞式は8月にSPORTEC 2016の会場(東京ビッグサイト)で行うことを予定しておりますので多数のご応募を期待しております。また、スポーツ人口の拡大とスポーツ産業の一層の振興のためにシンポジウムを2回、情報交換会を1回開催するとともに、例年ご好評をいただいております市民生涯スポーツ大祭を熊本県で実施し、多数の県民のご参加をいただきました。昨年7月に開催されましたスポーツ・健康関連の日本最大の専門展示会「SPORTEC 2015」においては、当連合会はセミナーの開催を含め特別協力を実施しました。

本年も事業計画に掲げた事業の実現を図り、スポーツ人口の拡大のためにスポーツの普及の振興はもとよりスポーツ健康産業の一層の発展に努めてまいります。皆様の益々のご発展とご活躍をお祈りし年頭の挨拶といたします。

第27回 定時総会

2015年6月19日(金)、東京都千代田区の弘済会館で第27回定時総会が開催された。代理出席及び委任状を含めた25名が出席し定足数(26名)の2分の1以上の出席があるため定時総会は有効に成立。

議長に選出された齋藤会長が出席者に対して謝辞を述べ、平成26年度事業が無事終了したことを報告。さらに平成27年度事業計画の事業実施にあたっての協力をお願いした。また、スポーツ庁の創設、スポーツや運動によって健康な社会をつくる考え、政府の産業競争力会議、財政諮問会議で健康保険をどうするのか、病気予防につながるにはどのような産業をおこしたらよいか等、真剣に討議がなされていることを説明した。

議事録署名人の選出後、議事に入り、平成27年度の事業計画及び平成27年度収支予算書が報告された後、平成26年度の事業報告、平成26年度決算報告、任期満了に伴う理事及び監事候補者の承認などの案件が審議され、すべて可決承認された。

第73回 理事会

2015年6月4日(木)、東京都千代田区の弘済会館で第73回理事会が開催された。出席は、本人出席が15名で定足数(27名)の2分の1以上の出席があるため理事会は有効に成立。齋藤会長が議長に指名された。

議長は出席者に謝辞を述べるとともに平成26年度事業が無事終了したことを報告。さらに平成27年度事業計画について十分な審議と事業実施にあたっての協力をお願いした。また、SPORTEC2015について引き続き特別協力をしていくことやスポーツ振興賞事業等を続けていくことを報告した。

その後、シンポジウム、情報交換会、スポーツ振興賞、スポーツ&レジャーフェスティバル、平成26年度健康寿命延伸産業創出推進事業「認知症予防を目指す統合型MCI早期介入プロジェクト」及び機関誌JSHIFの発行などの平成26年度事業の活動について報告がなされ、全員異議なく拍手をもって承認された。引き続き審議に入り、平成26年度決算報告及び任期満了に伴う理事及び監事候補者の承認(案)、部会構成メンバー変更などが諮られ、すべての議事が承認され、第73回理事会は終了した。

平成26年度 事業活動概要

■事業部会

「第13回シンポジウム」「第14回シンポジウム」「情報交換会」
「第3回スポーツ振興賞」

■イベント推進部会セミナー分科会

「SPORTEC2014特別協力」

■地域スポーツ振興部会

「2014スポーツ&レジャーフェスティバル（公益財団法人JKA補助事業）」

■広報宣伝・調査部会

「平成26年度健康寿命延伸産業創出推進事業『認知症予防を目指す統合型MCI早期介入プロジェクト』」
「機関誌JSHIF61号の発行」

■その他の事業

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2015」
「日本スポーツ産業学会への支援」他

平成27年度 事業計画

■事業部会

「シンポジウム」
「情報交換会」
「スポーツ振興賞」

■イベント推進部会セミナー分科会

「SPORTEC2015特別協力」

■地域スポーツ振興部会

「市民生涯スポーツ大祭(公益財団法人JKA補助事業)」

■広報宣伝・調査部会

「機関誌JSHIF62号の発行」
「調査研究事業」

■その他の事業

「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2016」
「日本スポーツ産業学会への支援」他

SPORTEC2015セミナー

2015年7月28日、東京ビッグサイトにてSPORTEC2015セミナーが開催され、本連合会は特別協力を行いました。スポーツ行政の新たな司令塔として、2015年10月1日に向けてスポーツ庁が設置されることになりました。森岡スポーツ振興課長にスポーツ庁とスポーツ基本法との関係、設置の時期、組織・役割・機能、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けての取り組み等、我が国のスポーツ行政の動向を語っていただきました。また、スポーツ産業に造詣の深い方々をお招きし、スポーツ庁への期待とスポーツに親しんでいる国民の皆様への期待を語っていただきました。

■基調講演

【テーマ】スポーツ庁設置と我が国のスポーツ行政の動向
～スポーツ行政の総合的な推進～

【講師】森岡 裕策氏 文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課長

■パネルディスカッション

【テーマ】スポーツ庁に期待すること&国民(スポーツ愛好者等)に期待すること

【コーディネーター】

野川 春夫氏 独立行政法人日本スポーツ振興センター 監事/
順天堂大学スポーツ健康科学部 特任教授

【パネリスト】

伊藤 華英氏 セントラルスポーツ(株)所属、順天堂大学所属、
北京オリンピック・ロンドンオリンピック競泳代表

松下 直樹氏 (株)アシックス スポーツマーケティング室長、
アシックスジャパン(株)取締役マーケティング統括部長

役員名簿(平成27年6月19日現在)

役員名	役員氏名	勤務	団体/会社名	役職
名誉副会長	中野啓二郎	非常勤	株式会社イースタンスポーツ	代表取締役会長
代表理事	会長 斎藤 敏一	非常勤	株式会社ルネサンス	代表取締役会長
業務執行理事	副会長 岩井 大助	非常勤	株式会社エバニュー	代表取締役社長
業務執行理事	副会長 馬場 宏之	非常勤	一般社団法人日本ゴルフ用品協会	会長
業務執行理事	副会長 原田 宗彦	非常勤	早稲田大学	教授
業務執行理事	専務理事※ 板垣 勝男	常勤	公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会	専務理事
理事	石井 淳	非常勤	株式会社博報堂	テーマビジネス開発局局長代理
理事	大石 順一	非常勤	一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会	専務理事
理事	尾山 基	非常勤	株式会社アシックス	代表取締役社長CEO
理事	加藤 誠	非常勤	株式会社ジェイティービー	観光戦略部長
理事	加藤 昌治	非常勤	ミズノ株式会社	代表取締役専務
理事	栗山 雅則	非常勤	公益社団法人日本テニス事業協会	副会長
理事	佐々木 剛	非常勤	スポルテック株式会社	代表取締役
理事	重森 仁	非常勤	日本スポーツ用品協同組合連合会	理事長
理事	下光 輝一	非常勤	公益財団法人健康・体力づくり事業財団	理事長
理事	丁野 朗	非常勤	公益社団法人日本観光振興協会	常務理事・総合研究所長
理事	杖崎 洋	非常勤	一般社団法人日本フィットネス産業協会	専務理事
理事	中里 則彦	非常勤	公益社団法人日本ボウリング場協会	会長
理事	中島 順	非常勤	株式会社電通	ビジネス・クリエーション・センター局次長
理事	野川 春夫	非常勤	順天堂大学	特任教授
理事	久岡公一郎	非常勤	株式会社東京ドーム	執行役員
理事	平野 哲行	非常勤	株式会社平野デザイン設計	代表取締役社長
理事	増本 岳	非常勤	カーブスジャパン株式会社	代表取締役会長 兼 CEO
理事	三野 哲治	非常勤	公益社団法人日本パブリックゴルフ協会	会長
理事	山中 祥弘	非常勤	ハリウッド大学院大学	学長
理事	渡邊 光康	非常勤	公益財団法人大崎企業スポーツ事業研究助成財団	理事
監事	小坂 勉	非常勤	千葉・小坂会計事務所	税理士
監事	服部 広行	非常勤	株式会社朝日広告社	執行役員

※専務理事 板垣 勝男 最終官歴 経済産業省関東経済産業局総務企画部次長

2015 スポーツ&レジャーフェスティバル

—この事業は競輪の補助金を受けて実施しました—



親子で楽しめる「ナインフープス」は毎年大人気



力加減の調節が難しい「サッカーナイン」



「スルーパス」。ボールが真っ直ぐに転がらず苦戦する子どもたち



一輪車や4人乗り自転車などに挑戦できる「おもしろ自転車体験」



飲食ブースが並ぶ会場内には多くの人が集まり、熊本の名産品をたしなんだ

会期 2015年10月17日(土)～18日(日)

会場 グランメッセ熊本(屋外芝生スペース)

主催 スポーツ&レジャーフェスティバル運営委員会
(公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会・
熊本朝日放送株式会社)

後援 経済産業省、文部科学省

スポーツ&レジャーフェスティバルは、さまざまなスポーツ種目を活用して、スポーツ意識の浸透を図ることをテーマに、地域を元気にしようとしてこれまで全国各地で開催されてきた市民生涯スポーツ大祭です。各種のスポーツを手軽に楽しむことのできるイベントとして、ひろく地域の皆様に親しまれてきました。2015年は、昨年に引き続き、熊本県で開催しました。このイベントは熊本県民の心と健康づくりを図るとともに、「ふるさとくまもと」への郷土愛を育むことを目的としているもので、子供から高齢者まで幅広い県民の皆様の参加を得て、成功裡のうちに終わることができました。

開催期間中はスポーツをするのに申し分のない秋の好天に恵まれ、公道ではできないおもしろ自転車体験やニュースポーツのナインフープス、サッカーナイン、スルーパスに多くの老若男女が参加し、体験してもらうことができました。

また、熊本朝日放送主催の「KAB 元気フェスタ 2015」との同時開催ということもあり、会場からの生中継番組が放映され、イベントの盛り上げに大変効果がありました。

屋外芝生広場にはレストスペースがあり、大勢の方がく

期間中の観客動員数 延べ 22,200 名

イベント	17日(土)	18日(日)
開会式	200	—
ナインフープス	3,000	3,000
サッカーナイン	3,000	3,000
スルーパス	3,000	3,000
おもしろ自転車体験	2,000	2,000
合計	11,200	11,000

つろがれていました。子供たちは保護者が見守るなか、スポーツ&レジャーフェスティバルのエアアーチを目標に、遊具、おもしろ自転車に駆け寄る様子がほほえましく感じられました。

期間中は全てのスポーツに障がい者を含め子供から高齢者までご参加いただき、まさにスポーツ&レジャーフェスティバルの目的にふさわしい2日間となりました。2日間の延べ来場者は約2万2千人と予想を上回る盛況ぶりでした。

第14回シンポジウム

スポーツツーリズムによる日本の活性化を目指して

2015年3月3日、東京都千代田区の弘済会館にて第14回シンポジウムを開催しました。2014年の訪日外国人旅行者は、円安、観光ビザの免除、免税制度の拡充などを追い風として、最多の1,341万人(対前年比129.4%)となりました。2年連続で最高値を更新しましたが、これにはスポーツツーリズムも大きく寄与したと考えられます。この度、観光事業の第一線でご活躍され、観光事業に造詣が深く、内閣府地域活性化伝道師の加藤誠氏から、「スポーツツーリズムによる日本の活性化を目指して」について講演いただきました。

講演『スポーツツーリズムによる日本の活性化を目指して』

講師 株式会社ジェイティービー 旅行事業本部観光戦略部長
株式会社 JTB 総合研究所 客員研究員 加藤 誠 氏



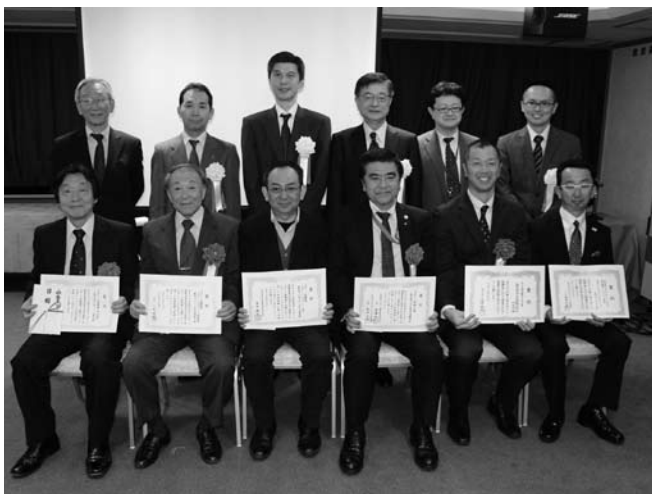
今後の日本を活性化するためのスポーツとして高い可能性をもつのは、やはりランニングです。現在では全国で976もの大会が行われています。しかし、そのなかで実際に地域経済の発展に伴っているものはまだ少ないのが現状です。今後は参加者を分析するなどして、より効率的な大会運営を考えていくことが課題でしょう。

東京マラソン大会は、経済効果のみならず、東京都民のスポーツ実施率を押し上げました。2009年40%弱であったところ、2012年には54%に、2020年には70%にもなるであろうと予想されています。今後も、このスポーツに対する国民の機運をさらに盛り上げていけるイベントを企画していきたいと思っています。

第3回スポーツ振興賞 発表

スポーツツーリズムやスポーツによるまちづくりに大きく貢献した者を表彰する「第3回スポーツ振興賞」の授賞式が行われた。スポーツ振興賞は、前身の「地域・スポーツ振興賞」（平成20年度創設）を一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構[JSTA]と共同で実施するために、平成24年度にスポーツ振興賞に発展的に改称したもの。

26件の応募のなかから、当連合会の選考委員会で慎重・厳正に審議し、「スポーツ振興大賞」1点、「スポーツツーリズム賞」として観光庁長官賞1点、一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構会長賞1点、「スポーツとまちづくり賞」として経済産業省商務情報政策局長賞1点、日本商工会議所奨励賞1点、「特別賞」として公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会会長賞1点が受賞。また、各受賞者からそれぞれの事業の成果について発表が行われた。



スポーツ振興大賞



作品名
九州オルレ

応募者
一般社団法人九州観光推進機構(福岡県福岡市中央区)

スポーツとまちづくり賞

経済産業省 商務情報政策局長賞



作品名
国際スポーツ雪かき選手権

応募者
一般社団法人日本スポーツ雪かき連盟(北海道小樽市)

スポーツツーリズム賞

国土交通省観光庁 長官賞



作品名
若狭路スポーツトリップ

応募者
一般社団法人若狭路活性化研究所(福井県三方上中郡若狭町)

日本商工会議所 奨励賞



作品名
湯のまち飯坂・茂庭っ湖マラソン大会(スポーツツーリズムを主体とした飯坂温泉活性化プロジェクト)

応募者
飯坂マラソン実行委員会(福島県福島市飯坂町)

一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA) 会長賞



作品名
留学生スキーインストラクター「おもてなしスノーレンジャー」育成プロジェクト

応募者
留学生スキーインストラクター「おもてなしスノーレンジャー」育成プロジェクトチーム(北海道札幌市中央区)

特別賞

公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会 会長賞



作品名
「スポーツ鬼ごっこ」と「伝承鬼ごっこ」による産業・地域活性化への貢献 ～日本文化「鬼ごっこ」がスポーツに!人と地域のつながりづくり～

応募者
一般社団法人鬼ごっこ協会(東京都世田谷区)

スポーツにおける地域振興のねらい ～スポーツ振興賞の更なる高みを目指して～

2015年9月3日、東京都千代田区の弘済会館にて第15回シンポジウムが開催された。スポーツ振興賞は、前称の地域・スポーツ振興賞を含め、これまで7年に亘り28団体・企業の方々を表彰して参りました。本賞は、受賞者を始め多くの方々からご好評をいただいております。この度、代表的な受賞者をお招きし、受賞事業の飛躍の状況とそのノウハウ、エピソード、課題、スポーツ愛好者へのメッセージをいただきました。受賞者等の皆様のご意見、情報を糧としてスポーツ振興賞は更なる高みを目指します。ここでは、当日開催された高橋義雄氏の講演内容をご紹介します。

基調講演

【テーマ】スポーツにおける地域振興のねらい
〈世界と日本の姿〉

【講師】高橋 義雄氏(筑波大学体育系 准教授)

パネルディスカッション

【テーマ】スポーツ振興賞受賞者からのメッセージ
～スポーツ振興賞の更なる高みを目指して～

【コーディネーター】

丁野 朗氏 (公社)日本観光振興協会 常務理事、総合研究所長

【パネリスト(スポーツ振興賞受賞団体)】

(一社)日本スポーツGOMI拾い連盟

さいたまスポーツコミッション

ツール・ド・三陸実行委員会

NPO法人神岡・町づくりネットワーク レールマウンテンバイク事務局

私が勤めている筑波大学のメインキャンパスはつくば市にあります。以前、そこに運動公園をつくらうという話が挙がり市民投票を実施したところ、8割が反対するという結果が出てしまいました。私は、このような結果になった原因は、マネジメントミスだと考えています。「きれいな施設ができる」「みんなが使える」などというふうに言うものの、誰一人として、自分がそこを使う姿をイメージできなかったのだと思います。運動公園をつくることによる社会・文化的なインパクトについて、もっとつくば市民にきちんとした説明があるべきであったと思います。

同様に、スポーツイベントを実施する際には新しいスポーツ施設やインフラ整備などが実施されることが多いですが、それを通じて市民の生活がどう変化するのか、事前にきちんと市民に説明することが必要です。例えば、“安心・安全な街づくり”をうたうなら、スポーツイベントやスポーツがそれにどう関わるのか、そ



高橋 義雄氏



パネルディスカッション登壇者たち

して「現在の地域はこうだけれども、このスポーツイベントを通じてこういうふうにしていきたい」ということを伝えるのです。これまでは、教育的な目的や市民の健康をゴールに設定したものが多かったと思いますが、どのイベントも同じゴールを設定する必要はありません。実施するエリアにおけるゴールを考え、明確化することが大切だと思います。

2012年に開催され成功を取めたロンドンオリンピックは、当初より貧困地区の再開発を目的にうたい、あえて貧困層が住む地域に会場を設置しました。終了後は、スタジアムやプールを縮小するなどしてロンドンオリンピック公園として生まれ変わり、多くの市民に利用されています。このように、事前に「こういうことをやりたい」とオリンピックのゴールを明確に打ち出し、人々にわかるように示したことも、成功要因の1つだと思います。

尚、ロンドンオリンピックでは、組織委員会とは別に、既述のロンドンオリンピック公園などをつくるために、Olympic Delivery Authorityという組織がつけられました。ここが土地の買収や地域の開発などを行いました。要するに、スポーツに関するオペレーションなどは組織委員会が担当し、そのほかの部分については、それぞれの目的に特化した組織を段階的に作っていったのです。日本では東京組織委員会が全部担当していますが、既述のような方法をもう少し参考にしたほうがいいのではないかと感じています。

認知機能低下予防への取組みポイント ～認知機能低下予防を目指す統合型介入プロジェクト報告～

期日：平成27年11月12日(木)

場所：弘済会館 東京都千代田区麴町5-1

講演

【テーマ】認知機能低下予防への取組みポイントと事業の概要

【講師】大淵 修一氏 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター、高齢者健康増進事業支援室 研究副部長

報告

【テーマ】認知機能低下予防を目指す統合型介入プロジェクト報告

【報告者】高崎 尚樹氏 株式会社ルネサンス 取締役常務執行役員

認知機能を低下させないためには、青魚を食べることや運動をすること、計算をするなどして頭を使うことなどの重要なポイントがあります。特に運動については、筋トレでも有酸素でもどちらでもいいのですが、中強度の運動をすることが重要であることが、最近わかってきています。

近年行われた研究で、とても面白いものがあります。60～79歳の地域在住高齢者を2つのグループに分け、一方には中強度の有酸素運動を、もう一方にはストレッチ体操を続けてもらいました。そして、MRIで脳の白質と灰白質の量、つまり脳の容積が増えたかどうかを比べてみたところ、中強度の有酸素運動をやった群のみに統計学的に有意な白質、灰白質の増加が認められました。この結果に、科学者たちはたいへん衝撃を

受けたのです。なぜなら、神経細胞は終細胞といって、一回できあがると分裂しない細胞です。その脳細胞が大きくなった(あるいは増えた)というわけで、「これは本当なのか」と、世界中で再実験が行われ、どうやら本当のようだということがわかりました。日本でも愛知県大府市にある国立長寿医療研究センターで実施したところ、増えるまでは確認できなかったようですが、減らないことは確認できたようです。このように、運動が脳に影響を及ぼすということは、かなり解明されつつあります。

皆様のフィットネスクラブでは、中強度の運動プログラムがありますか。それは、皆様方にとって、認知症の分野に入っていくための、いい材料になることを覚えておいていただければと思います。

尚、私はフィットネス業界の方がよく考える、地域の健康のために「とにかく体操を広げよう」という考え方にやや懸念をもっています。社会統制という言葉がありますが、みんなが集まって何かを一緒にやろうとすると、統制をとるために、自然と決まり事ができるものです。例えば、老人クラブなどで、まず机を並べないと怒られる、などがあります。社会統制が強いところに、弱い高齢者が行ったとして、入りやすいでしょうか？ 入りにくいですよ。それに、みんなが上手に歌を歌っているところに、歌が苦手な方が「入れてください」とは行きにくいものです。そこで大事になってくるのが、そういう弱い方をコーディネートしてくれる人物です。現在はまだそのような方はいませんから、ぜひ、皆様方と一緒に考えていけたらと思います。

事前予告

第16回シンポジウム

期日：平成28年3月3日(木) 場所：東京都千代田区 弘済会館

JSHIF2016.1 No.62

発行 公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会
Japan Sports Health Industries Federation

〒106-0032 東京都港区六本木6-2-33

六本木ヒルズノースタワーアネックス3階

Tel: 03-6434-9510 Fax: 03-6434-9511

ホームページアドレス <http://www.jsif.or.jp/>

発行日 2016年1月15日

発行責任者 広報宣伝・調査部会 部会長 中里則彦

編集協力 株式会社クラブビジネスジャパン

